

| | | |
|---|-------------|-----|
| 科目名称 : | 保育実習指導C | |
| 担当者名 : | 村上 知子、石野 友子 | |
| 区分 | 授業形態 | 単位数 |
| 専門教育科目 | 演習 | 1 |
| 授業の目的・テーマ | | |
| <p>「保育士資格」を取得するため、本学では「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅱ」を実施するが、「保育実習指導C」は「保育実習Ⅱ」の事前・事後指導に当たる授業である。学習した理論や技術を、実習を通して具体的・総合的に確認することを目的とする。</p> <p>「子ども理解」を深め、保育者の職務内容を把握し、実習により保育者にとって大切なことは何かを学び、その振り返りをし、事例研究にまとめ発表を通して、実習での学びを明確化することを目的とする。</p> | | |
| 授業の達成目標・到達目標 | | |
| <p>実習を通して、「保育の役割」や「子どもの姿」を学び、理論や技術について再度確認をし、この実習体験を現場に生かしていく力を身につけていく。そのための実習の振り返りを行い、自分だけでなく他の実習報告の発表を聞くことにより、より深く理解できるようになる。さらに、それらを実習報告書として冊子をつくり、記録をまとめていくための手順等を学び、現場に出てからの力となるようになる。</p> | | |

| 幼児教育学科 | ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針） | 重点項目 |
|--------|---|------|
| DP(1) | 自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。 | |
| DP(2) | 保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身に附している。 | |
| DP(3) | 保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。 | ○ |

| 評価方法／ディプロマポリシー | 定期試験 | クイズ 小テスト | 提出課題 (レポート含む) | その他 | 合計 |
|----------------|------|-------------|------------------|-----|-----|
| 幼児教育DP(1) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(2) | | | | | 0 |
| 幼児教育DP(3) | | | 50 | 50 | 100 |
| | | | | | 0 |

| | | |
|--------------|--------------------------|------------------------|
| 実務経験のある教員の担当 | 担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載） | |
| あり | 《内容1》保育士 | 《経験年数1》（村上）8ヶ月 |
| あり | 《内容2》幼稚園教諭 | 《経験年数2》（村上）20年・（石野）22年 |
| | 《内容3》 | 《経験年数3》 |
| | 《内容4》 | 《経験年数4》 |
| 備考 | | |
| | | |

| 到達目標ループクリック | すばらしい | とてもよい | よい | 要努力 |
|-------------|---|-------------------------------|----------------------------|--------------|
| 実習準備 | 自ら課題に積極的に取り組み、現場で生かすことが出来る。 | 課題に積極的に取り組み、現場で生かすことが出来る。 | 課題に積極的に取り組むことが出来る。 | 課題に取り組めていない。 |
| 提出課題 | 自ら課題に取り組み、グループで協力し意見をまとめ、提出期限を守ることが出来る。 | 自ら課題に取り組み、協力し、提出期限を守ることが出来る。 | 自ら課題に取り組み、提出期限を守ることが出来る。 | 課題に取り組めていない。 |
| 授業への積極的関与 | グループ内での役割を把握し、積極的に課題に取り組み協働的参加が出来る。 | グループ内での役割を把握し、協働的に取り組もうとしている。 | グループ内での役割を把握し、積極的に課題に取り組む。 | 課題に取り組めていない。 |
| | | | | |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間（分） |
|--------------------------------------|----------------------------------|-------------|
| 第1回 保育実習Ⅱに向けて、何が必要なのかを考える。 | シラバスを精読し、本講義の概観を確認しておく。 | 30分 |
| 第2回 身上書の下書きを書く。 | 身上書を丁寧に書く練習をしておく。 | 20分 |
| 第3回 身上書の清書をする。 | 身上書の内容をしっかりと理解しておく。 | 20分 |
| 第4回 実習前講演会に参加する。（幼稚園実習） | 実習に際しての疑問や質問を考えておく。 | 20分 |
| 第5回 実習前講演会に参加する。（幼稚園実習） | 実習講演会について振り返りレポートを完成させておく。 | 20分 |
| 第6回 オリエンテーションについて確認する。 | 電話のかけ方等の確認をしておく。 | 20分 |
| 第7回 実習記録記入方法を確認する。 | 実習園の概要を調べておく。 | 30分 |
| 第8回 DVD「保育士の仕事と役割」を視聴する。（ICT活用） | 保育士の仕事と役割について調べておく。 | 30分 |
| 第9回 実習記録の確認をする。 | 実習の記録で必要なところを記入しておく。 | 30分 |
| 第10回 実習の準備を行う。 | 実習で必要な教材を考え、準備しておく。 | 30分 |
| 第11回 季節や年齢に応じた指導について理解する。 | 教材の性質を理解し、年齢にあった指導案を書いておく。 | 40分 |
| 第12回 チュートリアルに参加する。 | 自分の実習を踏まえて、1年生に伝えたいことを考え、準備しておく。 | 30分 |
| 第13回 実習中の注意事項について理解する。 (グループワーク) | 実習中にどのようなことに注意をしたら良いか考えておく。 | 30分 |
| 第14回 「保育実習Ⅱ」での取り組みを考える。 (グループワーク) | 保育実習Ⅰの体験を基にどのように取り組んだらよいか考えておく。 | 30分 |
| 第15回 「保育実習Ⅱ」に向けての心構えを確認する。 | 「保育実習Ⅱ」の課題を考えておく。 | 30分 |
| 第16回 「保育実習Ⅱ」の振り返りをする。 | 「保育実習Ⅱ」の実習記録を見ておく。 | 30分 |
| 第17回 「保育実習Ⅱ」について話し合う。 (グループワーク) | 保育実習記録を見てどのような気づきがあつたかをまとめておく。 | 30分 |
| 第18回 「保育実習Ⅱ」について話し合った内容をプレゼンテーションする。 | プレゼンテーションの練習をしておく。 | 30分 |
| 第19回 「実習報告会」に向けて話し合う。 | どのようなことを1年生に向けて話したいいいかを考えておく。 | 30分 |
| 第20回 「実習報告会」「事例研究」に向けて話し合う。 | 実習を通して、何を研究したいかを考えておく。 | 30分 |

| 授業の内容・計画 | 事前事後学修の内容 | 事前事後学修時間(分) |
|--|-------------------------------------|-------------|
| 第21回 「実習報告会」(チュートリアル)についてクラス内でプレゼンテーションする。 | プレゼンテーションの練習をしておく。 | 40分 |
| 第22回 「実習報告会」(チュートリアル)に参加する。 | 1年生に向けて分かりやすく伝える方法をクラス全体で考え、練習しておく。 | 40分 |
| 第23回 「事例研究」に向けてグループで討論する。(グループワーク) | 実習記録を基に事例を考えておく。 | 30分 |
| 第24回 「事例研究」に向けて小グループで討論する。(グループワーク) | 実習記録を基に事例を考えておく。 | 30分 |
| 第25回 「事例研究」を作成する。 | 出来たところまでデーターとして打ち込んでおく。 | 30分 |
| 第26回 「事例研究」を作成する。 | 出来たところまでデーターとして打ち込んでおく。 | 30分 |
| 第27回 「事例研究」を作成する。 | 出来たところまでデーターとして打ち込んでおく。 | 30分 |
| 第28回 「事例研究」の冊子を作成する。 | 冊子に間違いがないか、確認しておく。 | 30分 |
| 第29回 冊子を基にグループ毎にプレゼンテーションを行う。 | 冊子のどの部分を発表するかを考え話し合っておく。 | 30分 |
| 第30回 冊子を基にグループ毎にプレゼンテーションを行う。 | 冊子のどの部分を発表するかを考え話し合っておく。 | 30分 |
| 事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(レポート)をまとめることになる。 | | |
| 成績評価の方法・基準 | | |
| 定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 実習記録50% 事例研究の話し合いや内容、プレゼンテーション50% で評価配分する。 | | |
| 課題に対してのフィードバック | | |
| 実習記録・指導案、事例研究を評価、添削、確認し返却する。 | | |
| 教科書・参考書 | | |
| 教科書：「学びつづける保育者をめざす 実習の本」久富陽子 萌文書林 授業で毎回使用します 参考書：「これで安心！保育指導案の書き方」開 仁志編著 北大路書房 参考書：「実習の手引き」金城大学短期大学部 | | |
| 備考 | | |